

あなたの半生 歌と映像に



セレモニービデオ完成を喜ぶ生沼さん（中央）を囲む古屋さん（左）とドローン撮影を担当した中島さん（南足柄市で）

障害者支援や就農支援に取り組む一般財団法人「春めき財団」（南足柄市）が、依頼者の半生を歌と映像で振り返る「セレモニービデオ」を制作する事業を始めた。葬儀や感謝の会などに活用することを想定している。制作費は一本約100万円と値は張るが、売上金は、経費を除いた全額を視覚障害者施設に寄付。人生の最後に社会貢献してもらいたい。

（丹下信之）

売上金障害者施設に寄付

南足柄の団体 ビデオ制作

生、人のため」「そんなことが口癖だった。親分肌の葬式が楽しみだ」と笑う。あなたです」とつづり、映像では、高校時代の写真、お世話を聞いてもらいたい」という。古屋さんは、上空から見下ろした風景や地元の神社、菩提寺も撮影し、フィナーレはドローンを上空に舞い上がりさせて「生沼さんが天から見守る」様子を演出した。

事業を企画したのは財団理事長の古屋富雄さん（66）。古屋さんが依頼者に半生を取材した上で作詞・作曲を行い、音楽仲間のギタリスト平野融（ひらのゆう）さん（62）が、依頼者に唱を担当する。ドローン操縦士の中島芳男さん（62）（小田原市）が、依頼者にゆかりのある土地を空撮して思い出深い映像に仕上げる。

事業を発案したきっかけ

は、古屋さんの知り合いの農業生沼仁（おぬまじん）さん（77）（南足柄市）からの依頼だった。古屋さんが、今年8月に亡くなつた、生沼さんの親友にまつわる楽曲を作り、それを聞いた生沼さんが感激し、「自分の曲も作ってほしい」と頼んだ。

生沼さんは長く農協理事を務めるとともに福祉施設に土地を寄付し、現在はこの施設の理事を務める。登山が趣味で、70歳直前にエベレスト登山にも挑戦。消し炭で描く絵も達人級だ。古屋さんは快活な人柄の生沼さんについて「良く働き、良く飲んだ」「俺の人

0・7849・9200）。

「ビデオ制作を通じて、多くの人に余生を元気に過ごしてもらいたい」と話す。財団は「セレモニービデオ」の名称で商標登録出願中。事業を成功させ、寄付文化を広めたいという。問い合わせは古屋さん（09